

令和 4 年度 総務委員会 第 1 回議会報告会

令和 5 年 1 月 1 7 日

委員長 【 中島 宏明 】

議会報告会実施計画	委員会 テーマ	『自主防災組織ランクアップの取り組み』について			
	テーマ 設定目的	安全・安心のまちづくりのために、自主防災組織の活性化を考える。			
	対象団体	区長（59区）			
	調整事項	実施日	令和 4 年 1 2 月 6 日（火）		
		時間	午後 2 時 3 0 分	～	午後 3 時 5 0 分
		会場	市役所東館 201～203 会議室 ほか		
		出席 予定者	総務委員 6 名 市内各区長 最大 5 9 名		
事前準備	役割 分担	挨拶・基調報告・進行：中島委員長 受付：勝間田副委員長、菅沼委員、高橋委員 記録：高木委員 書記：芹沢委員 グループワーク：委員長以外全委員			
	資料	基調報告資料：中島委員長			
	その他				
備考	行政視察した内容を基調報告した後、5グループに分かれ、ワークショップ形式で、問題や課題の抽出また、今後取り組んでいくべきこと等を意見交換する。				

議会報告会実施報告	実施日時 参加者	実施日	令和 4 年 1 2 月 6 日（火）		
		時間	午後 2 時 3 0 分	～	午後 3 時 5 0 分
		会場	市役所東館 201～203 会議室 ほか		
		当日 参加者	総務委員 6 名 市内各区長 4 9 名		
	実施内容 概要	『自主防災組織ランクアップの取り組み』について基調報告。 その後、グループワークをし、地区担当委員が内容を報告。 地区の意見を委員長が総括し、今回の内容は当局へも報告するとして終了した。			
報告書	報告書作成	委員全員提出、委員長まとめ		詳細は別紙	
	議会だより	中島宏明委員長		原稿は後日	
備考					

別紙様式2

議会報告会実施報告書

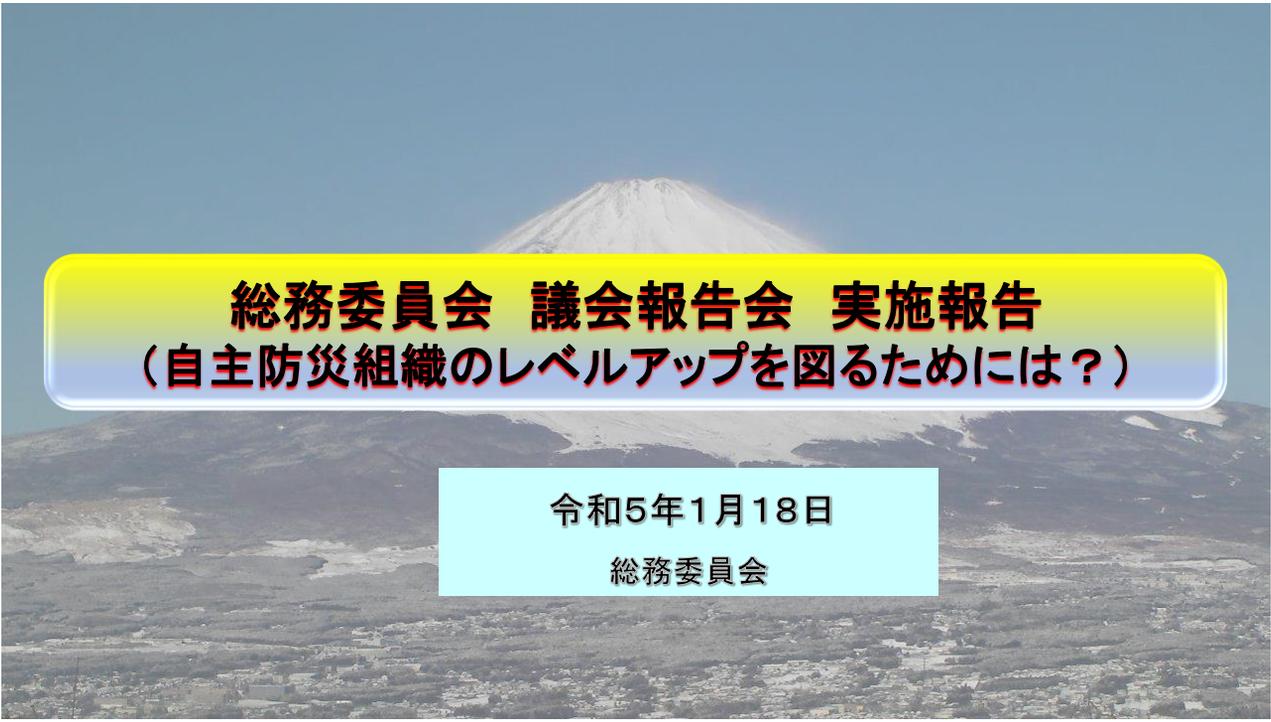
開催日時	令和4年12月6日(火) 午後2時30分～午後3時50分	
開催場所	市役所東館201～203会議室 ほか	
テーマ	『自主防災組織ランクアップの取り組み』について	
出席議員	司会者	中島 宏明
	報告者	基調報告：中島 宏明
	その他	御殿場地区：高木 理文 富士岡地区：勝間田 博文 原 里地区：高橋 靖銘 玉穂・印野地区：芹沢 修治 高 根地区：菅沼 芳徳
参加人数	総務委員 6名 と 区長 49名 計55名	
実施内容	『自主防災組織ランクアップの取り組み』について、行政視察をした内容を基調報告した。 その後、5グループに分かれ、地区の自主防災について、トランプ方式により意見交換した。 グループワークの結果を地区毎委員が報告。 委員長が、総括して発表。	
主な意見・提言等	別紙の報告書及びアンケート集計結果のとおり。	

以上のとおり、報告します。

令和5年1月13日

御殿場市議会議長 様

御殿場市議会 総務委員会 委員長 中島 宏明



総務委員会 議会報告会 実施報告
(自主防災組織のレベルアップを図るためには?)

令和5年1月18日

総務委員会



御 殿 場 地 区 （ 高 木 委 員 ）



御殿場地区（高木委員）

自主防災組織のレベルアップを図るためには？

No	項目	提 案 事 項
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○消防団とのコミュニケーションが必要。 ○防災士取得者に対し、何らかの得点を与える。 ○教育による知識の向上 ○防災士を各組1名以上育成する。 ○防災委員長等、役員に手当を付与 ○防災士・防災リーダー等、専門家不足 ○防災リーダー講習を増すのに日当を出す。 ○毎年役員が替わる為、マニュアルの作成 ○女性防災リーダーを組長・班長の奥様に支援していただいている。
2	組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○企業との連携 ○女性の参加を増す為、婦人会を見直す。 ○防災組織が弱い（日中の対応不可） ○女性は、婦人会としての団体での組織参加に留まっている。 ○区内組織は名簿上のみ、実行不可 ○平日は若い人たちが仕事で留守しているので、平日の昼間に活躍できるシニアの方たちの組織を生み出したい。
3	防災取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○各世代へ防災意識のアンケート調査 ○防災マップの見直し（2年ぐらい前では？） ○各家での防災対策品の充実 ○防災食の備蓄が少ない。 ○日常の避難用具の点検や家具転倒防止等、毎月呼びかけたい。 ○自宅内の防災手段を補助する。（例：棚転倒防止等） ○家族内での災害時の連絡網の確認 ○お金のかからない防災対策の促進・実行・確認する機関の設定 ○大人の意識改善・改革は困難なので、小・中学生など若い世代をターゲットに教育する。
4	訓練関係	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練日を予告なく行う。○避難訓練中心のメニューから実践的な訓練を示す。 ○防災訓練を通して親睦を深める。 ○訓練項目が絞り切れていない。○機器の取扱い及び構造等を理解する。○訓練は繰り返し行う。（レベルアップ） ○バケツリレーの様なイベント的な訓練はやめて、本物の消火器を使って初期消火訓練をしたい。 ○実際に災害が起きた時に役立つ内容で行い、参加者一人一人に役割を与える。
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者及び障害者の避難支援は隣近所の住人に依頼する。 ○要支援者個別避難計画の作成 ○避難行動時の近所声かけや手伝う人の設定や意識向上に取り組んでいる。 ○避難時、支援を受けなければならない人へ理解活動に取り組んでいる。 ○防災意識の向上を図るには見て、聞いて、実行する。
要望事項等		<ul style="list-style-type: none"> ○各地区における防災士取得者等の情報共有（防災士等専門的識能をもっている方の情報を区長等に教えてほしい） ○2次避難所の開設基準を明確にする。 ○発生時は混乱するので、まず何をすべきか共通の認識（基準）を付与する。 ○防災時の避難所（建物）が無い。 ○参加者の半分以上が高齢者であり、若者の参加を促す。

富士岡地区（勝間田副委員長）



富士岡地区（勝間田委員） 自主防災組織のレベルアップを図るためには？

No	項目	提 案 事 項
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○防災士の資格を計画的に取得させる。 ○防災役員の勉強会を定期的に実施。 ○防災部長・防災リーダーの他、防災アドバイザーの配置 ○有事の際、如何にして女性の手助けが得られるか？ ⇒ 女性が防災会の中で活躍できるように環境整備を図る（防災士等）
2	組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○区が小さいので本部役員の数が足りないと思われる。 ○一人一人が防災意識を更に高める。 ○防災リーダーの任期を長期にする。 ○地域の連携・絆を深めて災害が発生したらお互いに助け合う。 ○要支援者に対する支援がない場合の方策を検討する。
3	防災取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○各家庭の防災準備（備蓄・転倒防止等）程度を広報・点検する。 ○コロナ禍では一時避難所が密になる恐れがあり、見直しが必要（仕切り板等の設置） ○区民からの防災に関する要望を聞く ○中央防災会議の歴史災害資料の収集・教育（中央防災会議の1日プロジェクトの活用） ○避難所の所在地を事前に説明しておく。 ○トイレの数は足りるのか？（男女トイレの比率含む）
4	訓練関係	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年の訓練参加率の向上を図る。 ○実態の機会教育、DVD放映 ○避難経路を確認する。 ○各区によってはコミセン等の大きさが違うので避難所等の訓練ができない。（学校等の体育館借用が出来ら良い） ○女性を中心とした訓練が必要である。 ○子ども（中学生）の防災発表会 ○避難してきた人の受付合理化及び避難経過の見直し・点検 ○集合場所のスペースはどうか？
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○当区では高齢化率が40%以上と高く、防災・その他いろいろ苦勞している。 ○消火栓の水圧が低い。 ○水害・山崩れ等の心配がないので訓練と言っても安心していい。 ○太陽光発電を試したが曇りの為、発電できず。 ○防災集合場所でのプライベート関係はどうすれば良いか。 ○すべての情報が市より早く個人が入手している。 ○要支援者の家を確認しておく。 ○小さい子ども（特に赤ちゃん）等の対応はできるのか？
要望事項等		<ul style="list-style-type: none"> ○防災機器の市からの援助拡大 ○水害における防災マップの拡大が地域ごとにあれば良い。 ○防災マップを作る時、地域との打ち合わせをしたらどうか？ ○コミセンの防災無線を交換を早くしてほしい。 ○要支援者の個別計画の作成において支援者のお願いは時間が掛る。 ○防災の情報発信をピンポイントで行ってほしい。

原里地区（高橋委員）

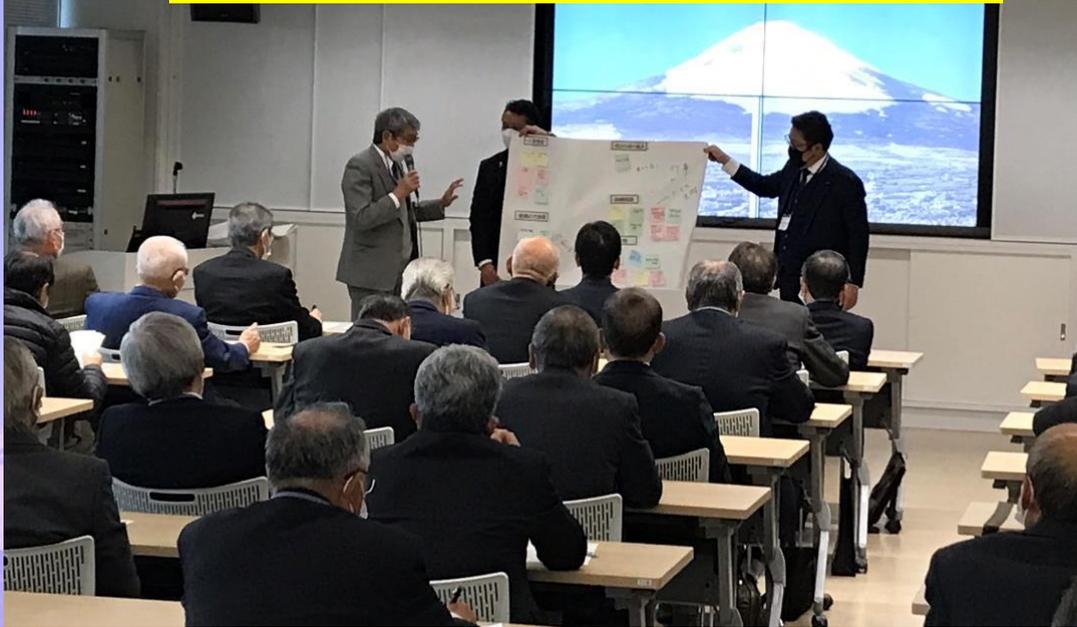


原里地区（高橋委員）

自主防災組織のレベルアップを図るためには？

No	項目	提 案 事 項
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○人材育成が必要であるが、参加者がいない。 ○活動内容が多く（重く）なると役員のなり手がいない。 ○防災の役割発揮、人材・防災リーダーの養成、防災スペシャリストの育成 ○防災役員の交代が多く、毎年同じところから始める事になる。住民の入れ替わりが激しく、経験が蓄積されない。 ○今年度防災部長が交代したので防災に対するレベルアップが必要 ○家庭での防災意識を向上する。
2	組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○区における防災リーダーの認知度が低い。 ○応急手当の担当者は組織上であるが、対応できていない。 ○防災リーダー経験者を活用 ○自主防災担当組織図はあるが、各担当班の平常時の役割分担が決定していない。 ○各役割の明確化、形はあるが中身が薄い組織になっている。 ○昼・夜の組織の作成が必要
3	防災取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○防災への女性目線の意見採り入れ。 ○昼間は主婦の方が中心となるが、訓練参加者が少ない。 ○防災施設を増やしたい。 ○若者への参加要請○自助の徹底、例えば7日間の水確保等 ○火防隊がなくなった。 ○消防団・火防隊員の不足（消防団・火防隊の欠員をどうするか？ ○防災機材を保管する場所がない。 ○避難所設備機材の拡充○防災拠点の見直し。 ○防災資機材等の更新 ○大雨災害発生場所の確認（マジックでマーカー等）
4	訓練関係	<ul style="list-style-type: none"> ○周知不足、回覧しても周知されない。 ○全体の訓練を年1回実施するも、各担当班毎で訓練が実施されていない。 ○訓練内容を今日の状況にあった内容とする。 ○他区との連携が無い。 ○災害別の訓練が必要 ○防災訓練は各戸1名程度の参加で訓練への参加意識が低い。 ○訓練参加者が毎回同じ。 ○リアリティのある訓練の実施 ○訓練は他人事、訓練の練度を高めるには？
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○区全体の防災意識が低い。 ○避難要支援者の個別計画は実現可能か？（避難支援者の確立が難しい。） ○人任せ、役員任せ、「行政何とかして！」の意識が強い ○近所付き合いを避ける家がある。付き合いの欠如、向こう3件両隣の意識が低い ○区民の高齢化 ○防災委員・リーダーは各仕事をもっており、有事の際に集結できない可能性が大きい。
要望事項等		<ul style="list-style-type: none"> ○防災無線の不通を解消 ○防災訓練計画を立てる段階で年ごとの課題があればマンネリ化しない。 ○季節の特性に応じた防災資機材の充実（冬⇒ストーブ、夏⇒暑さ対策、雨⇒カッパ等）

玉穂地区（芹沢委員）



玉穂・印野地区（芹沢委員） 自主防災組織のレベルアップを図るためには？

No	項目	提案事項
1	人材育成	○防災士の育成、特に女性防災士の育成 ○防災部長の後継者づくり。 ○防災リーダーの育成 ○女性の防災活動の参画 ○指導防災士の育成
2	組織の充実	○消防団員の確保 ○防災リーダー認定と手当支給 ○役割の明確化 ○組織図の作成・見直し（役割の明確化） ○人材不足
3	防災取組み	○防災センターの設置。 ○住民の意識向上 ○西中生徒による防災学習成果の発表会を実施
4	訓練関係	○訓練のマンネリ化 ○AED取扱い訓練の実施 ○災害別訓練の実施（地震・火山噴火・風水害） ○訓練内容の充実（要配慮者の避難支援実施訓練の必要性大） ○要配慮者避難支援における隣人の支援。 ○訓練回数の増加が望ましいが、実行には困難なのでDVD等を活用しイメージを付与する。
5	その他	○防災広報の充実 ○自助努力の充実（水・食料・簡易トイレ、家具の転倒防止等、チェックリストにより各戸毎準備させ、点検・診断） ○自分の住んでいる場所の実際の危険度をもっと詳しく知る。 ○いろいろな団体が日頃行っていることを通して住民へ周知
要望事項等		特に無し。

高根地区（菅沼委員）



高根地区（菅沼委員）

自主防災組織のレベルアップを図るためには？

No	項目	提 案 事 項
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○女性リーダー不足 ○防災士養成（防災士等が高齢化している） ○防災リーダーの任期長期化 ○若い世代が不足、特に平日の日中 ○消防団員への成りてがいない。 ○日中は高齢者・女性が多く、中学生・高校生に期待
2	組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○区内で組織の確認（4月・12月）交換 ○区内の組織図はあるが、平日の日中は実効性が無い。 ○防災リーダーと要配慮者の担当等、取りこぼさないように決める。
3	防災取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○中学・高校生の防災についての発表会 ○消防署職員の指導 ○防災全組織の市横断的情報を共有する。 ○マンネリ化を防止するためモデル化も必要 ○防災マニュアルの周知 ○防災取組み自体が災害時役に立つか？それより近所との助け合いが肝要
4	訓練関係	<ul style="list-style-type: none"> ○中学・高校生の参加 ○訓練のポイントを定める。 ○避難所開設訓練の実施 ○訓練が毎回同じような訓練となってしまう。（マンネリ化している） ○防災訓練に参加する人たちは、数が多いが、女性・子供がほとんどで若い世代の参加が必要である。
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○要支援者の救護は日ごろの見回りが必要（要支援者の把握） ○個人情報と要配慮者との関係 ○子供から老人まで皆の集まり等、コミュニケーションが必要
要望事項等		<ul style="list-style-type: none"> ○避難所整備のための資機材の購入・更新

No	項目	提案事項
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○防災士等の専門的識能を持つ要員の計画的育成（女性・若者） ⇒防災士取得者に対し、何らかの得点を与える。 防災役員等に手当を付与。 防災リーダー講習にも手当を出す。 ○防災役員の交代が多く、毎年同じところから始める事になる。住民の入れ替わりが激しく、経験が蓄積されない。 ⇒ 毎年役員が替わる為、マニュアルの作成
2	組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災担当組織図はあるが、各担当班の平常時の役割分担が決定していない。昼夜間を区別した組織図が必要 ⇒防災リーダー経験者の活用。 防災役員の任期を長期化（成り手が敬遠）、 役割の明確化（副要員の設定） ※地域の連携・絆を深めて災害が発生したらお互いに助け合う。
3	防災取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○自助の推進 ⇒各家庭の防災準備（備蓄・転倒防止等）程度を広報・点検する。 ○防災意識の向上（広報・周知） ⇒災害実態の機会教育（講話・DVD放映）、区民からの防災に関する要望を聞く。 ※避難経路・避難所の事前説明・確認、避難所の在り方（コロナ禍）等、明確にしておく。
4	訓練関係	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年の訓練参加率の向上を図る。（女性・若者・小・中学生） ⇒隣人等の声かけ：特に女性・若者、小・中学生の参加（防災訓練参加証明書の発行） ○訓練内容の充実（マンネリ化防止） ⇒地域の特性に応じた訓練の実施、被災時に直接役に立つ訓練の実施、要支援配慮者の避難訓練の実施
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○防災に関する共通認識の付与（要支援配慮者の個別避難計画の作成） ⇒日ごろからコミュニケーション親睦を深める。（地域の連携・絆をあらゆる面で深める。⇒各種行事等への参加） ○防災集合場所でのプライベート関係はどうすれば良いか。 ○要支援配慮者の個人情報とは？ ○小さい子ども（特に赤ちゃん）等の対応はできるのか？
要望事項等		<ul style="list-style-type: none"> ○防災機器（資器材）の市からの援助拡大 ○地域ごと水害における防災マップの充実。 ○防災マップを作成時における地域との連携 ○2次避難所の開設基準の明確化（1次避難所の狭隘化） ○コミセンの防災無線の充実（無線傍受出来ない地区の存在）○防災の情報発信をピンポイントで発信 ○要支援者の個別計画の作成において支援者のお願いは時間が掛る。

区長会長所見（勝亦功様）



先日（4日）に実施した各地区の防災訓練の結果を踏まえ、日頃から地域の自主防災に関し、課題と知っていることの情報共有がいき、有意義であった。今後も継続して取り組んでいただきたい！

議 会 報 告 会 総 括

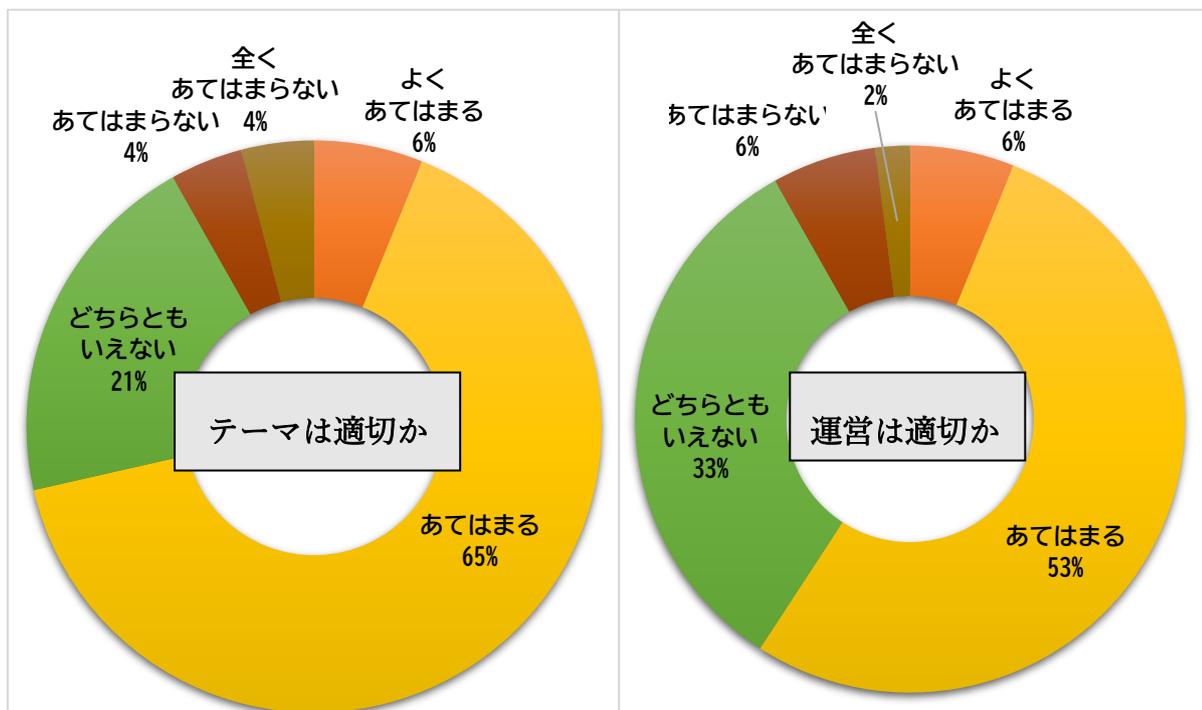
No	項 目	実施結果（良好な点・改善を要する点等）
1	課題提議	<p>日頃から地域住民に寄り添い防災という如何にすれば地域の安全・安心に意識を傾注される区長の皆様に自主防災の重要性を再認識させることができた。特に12月4日（日）に地域防災訓練を実施した直後であり具体的に課題を認識させることができた。しかしながら、アンケートにもあるように「人口の増えるまちづくり～住み続けるまちを目指して」から「大前提 ⇒ 安全・安心のまちづくり（防災力の充実）」への移行が、やや強引（説明不足）であった。（視察先がコロナ禍で断られた事等）</p>
2	視察紹介	<p>小松市の取り組みについては、理解・興味を示すものの現場感覚からは「評価制度」は御殿場の特性・現状では、時期尚早と思料した。しかしながら女性の取組等に関しては各地区とも共通的な課題であり、取り組み例に積極的な意欲が感じられた。</p>
3	討議要領	<p>討議当初においては、やや消極的ではあったが、地域防災訓練を実施した直後であり具体的に意見が出され、時間的に足らなかったとのアンケート意見が多かった。例年区長会定例会時に実施し、議会からの報告のみで意見を聴取したことはなかったとの事でしたが、やはり一方通行ではなく、意見を聞くことを採用した。しかしながら定例区長会が控えており、1時間半（実質1時間20分）が限度との事で、区長会の皆様に別の日に集まっていたりことや長時間になる事を配慮し、結局は時間不足となった。目的と効果を意識した日時（時間）設定が必要であった。</p>
<p style="text-align: center;">考察（提言）</p>	<p>今回の議会報告会（視察含む）を踏まえ、小松市における自主防災大会（評価制度）は、マンネリ化防止への参考とはなるが、御殿場市の自主防災組織の歴史・風土及び現状から時期尚早との意見であった。ただ、やはり人材育成・組織の充実・防災取り組み・訓練関係に対し、各区とも課題を抱えていることを再認識し、各区の現状（良好な点・改善を要する点）等も共有することができた。</p>	
	<p>今後は、自主防災大会とまでは至らぬも、市が実施する一次避難所開設運営訓練、通信訓練及び総合防災訓練等においてチェックリストに基づく自己評価を実施し、保有すべき自主防災活動能力における改善すべき事項を明確にさせる。また積極的に他地区の訓練を見学・研修させる等、情報共有・切磋琢磨による意識・能力の向上を図るべく、危機管理課へ提言する。 ※有効な組織編成の為、防災士等専門的職能を持つ方の情報共有（資格取得・研修時に意志を確認）</p>	

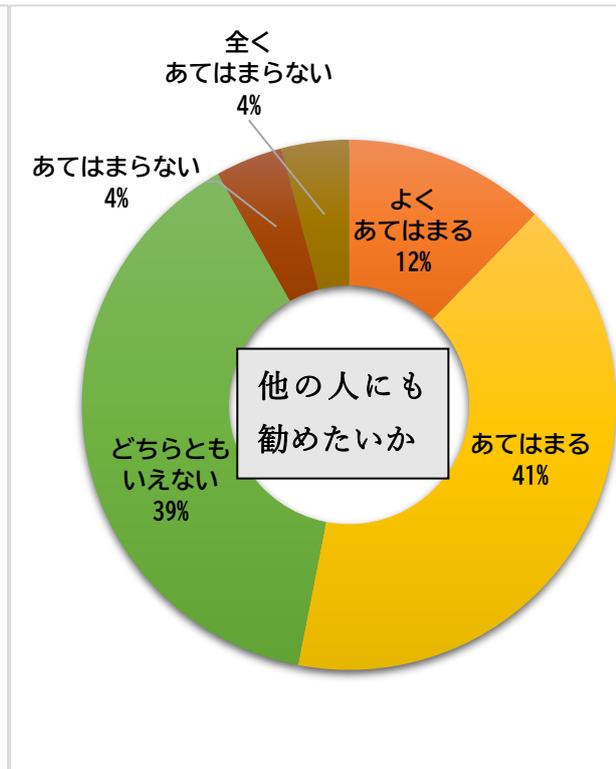
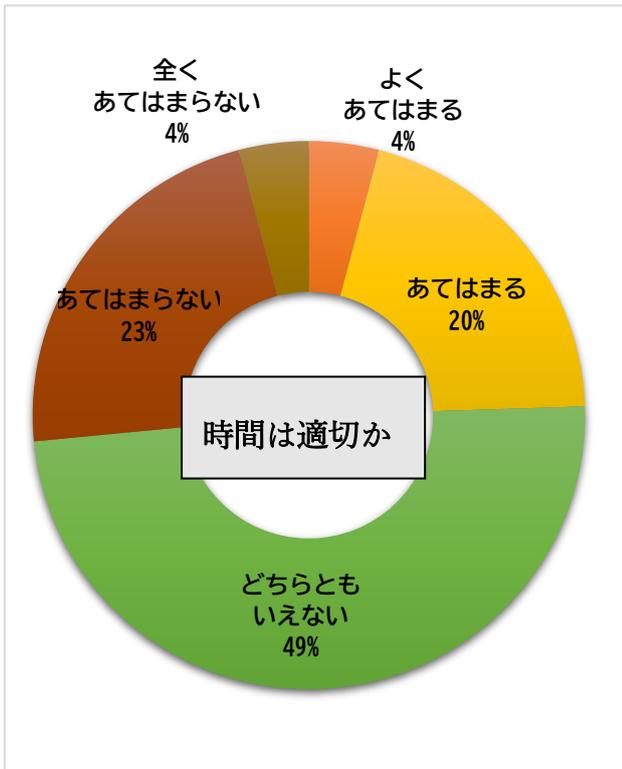
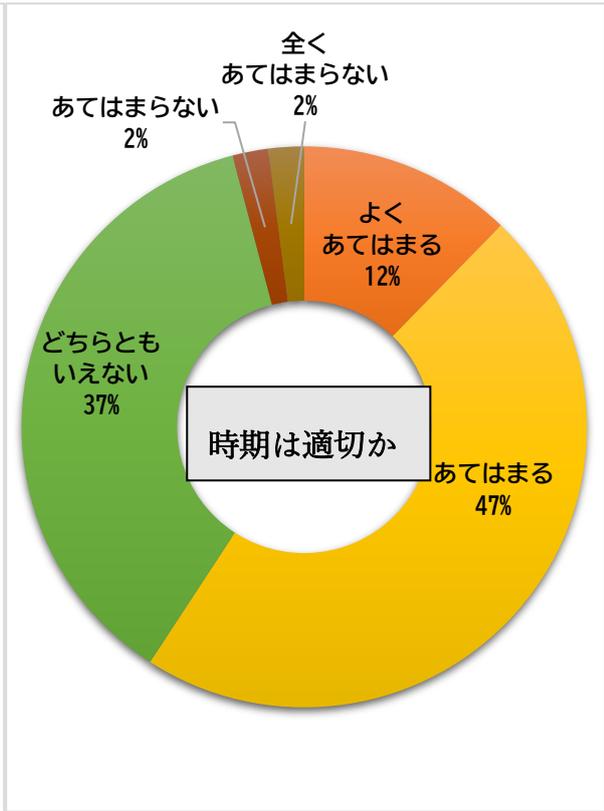
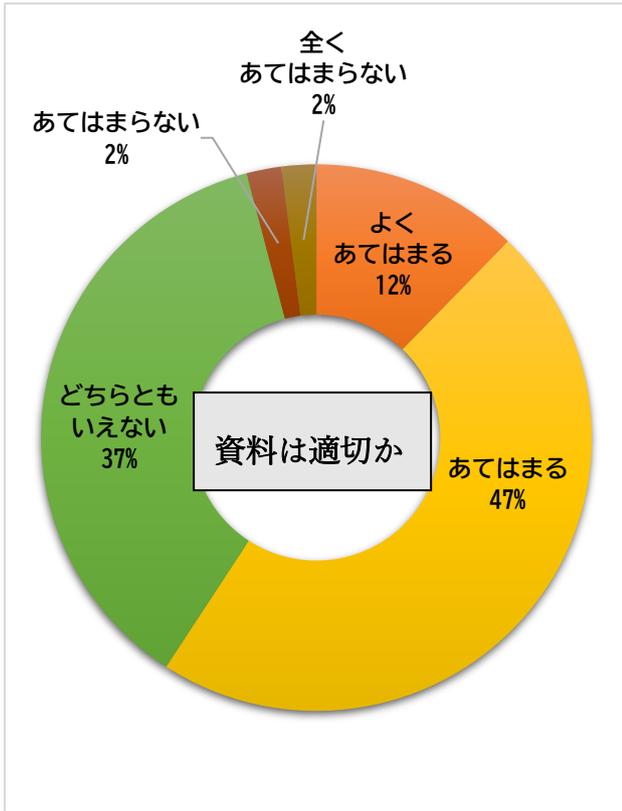
市議会総務委員会議会報告会アンケート結果

< 各質問の結果表 >

	よく あてはまる	あてはまる	どちらとも いけない	あてはまらない	全く あてはまらない
テーマは	3	32	10	2	2
運営は	3	26	16	3	1
資料は	6	23	18	1	1
実施時期は	6	23	18	1	1
時間は	2	10	24	11	2
他の人にも 勧めたいか	6	20	19	2	2

< 各質問の結果の割合 >





改善した方がよい点・要望等

- ・委員がまとめきれない（時間もない、絞り切れない）
- ・問題点をあげるのか、施策をあげるのか論点不明であった。
- ・GWについて、事前の開催通知にもっと明確に準備養成した方が良いと思う。
- ・GWの時間を長くとれるようにした方が良い。
- ・現状が中心に話があったが、ランクアップされたか？
- ・総務委員会の課題として、人口の増えるまちづくりを上げ、年間テーマとして、安全・安心のまちづくり（防災力の充実）のため、本日の討議となったと思うが、防災も最重要だが、課題を解決するためには、他にも重要なテーマがあるように思われます。それらは、どのように取り組んでいるか知りたい。
- ・各区の問題は様々なので、今回のテーマで、再度行うならば、充分時間を取ってほしい。
- ・他区との意見交換も必要と思われる。
- ・区長も必要と思うが、防災リーダー等にもこうした会に参加した方が良いのでは、
- ・区防災部長、リーダーからの意見を聞く機会を設けたらどうか。
- ・時間が短かった。
- ・防災関係は重要課題であるので、GWの時間を増やしたらよかった。
- ・話していることは間違いではないと思いますがよく理解ができなかったので、もう少し具体的にしてほしい。
- ・区長に十分な研修機会がないので、ランクアップを考えるまでに至らない。例：防災士が、どこにいて、何をするのか知らない。
- ・事前の周知をもっと明確にしてほしかった。
- ・防災訓練の後での報告会で良かったと思う。
- ・現状のレベルをどう評価しているか
- ・あるべき姿が、明確になっているか、問題が整理されているか
- ・案内文だけでは、目的がよく理解できなかった。
- ・GWをするには、人数が多いので、4～5人の班に分けて討議を深めていく方法が、この報告会の狙いに近づけるのではないかと思われる。
- ・テーマはタイムリーであったが、時間が短くて書くだけに終わってしまったので、GWが深まらなかったため、2～3時間位の時間を確保して実施した方が良かったと思う。
- ・もう少し時間が欲しい。
- ・できれば年度初めにお願いしたい。
- ・付箋に書く時間、それをもとに話し合う時間が足りなかった。
- ・このような取組は毎年やられているのか、良い取り組みだと思う
- ・報告会のポイントが解りにくかった。（GW）
- ・お茶のひとつも有れば
- ・人口の増加？
- ・報告会という題の案内であったが、主にGW活動であり、事前の内容説明が不十分です。
- ・GWの内容が不明で、事前準備できるようにして頂きたい。

市議会に伝えたいこと

- ・コロナの中の難しい状況の中、活動していただきありがとうございます。
- ・更なるご活躍を期待しています。
- ・初動を早くできるよう申し入れて欲しい。
- ・防災訓練の今年のテーマをしぼりこんで、より具体的にどういう場面のどういうための訓練かはっきりさせたい。
- ・区に属さない人たち（アパート・借家）の取扱いについて
- ・良い意見を市に伝えてください。（要支援者等の問題）
- ・それぞれの区の実情で訓練をしています。それに対してレベルに凸凹があるというのはどうでしょうか。どの程度が平均的なレベルなのか分かりません。
- ・検討した結果のフィードバックをお願いします。
- ・訓練のための訓練ではダメ
- ・昼夜の防災体制のひな型等、広報してほしい。
- ・区長会とのコミュニケーションを更に増加していただきたい。
- ・駐車場の案内を事前にしてもらいたい。

御殿場市議会総務委員会 議会報告会

於 御殿場市区長会

令和4年12月6日

御殿場市議会総務委員会

御殿場市議会総務委員会 議会報告会次第

1 開 会（総務委員メンバー紹介）

2 委員会の活動状況（視察含む）報告

3 意見（協議）交換会（各地区毎）

御殿場地区：第1委員会室、富士岡地区：第2委員会室

原里地区：301・302・303会議室、

玉穂・印野地区：304・305・306会議室

高根地区：201会議室

4 発表・質疑

5 閉会

御殿場市議会総務委員会



総務委員会の役割

所 管

企画部、総務部、市民部、危機管理課、会計課、選挙管理委員会、監査委員、固定資産評価審査委員会及び公平委員会に属する事項並びに他の常任委員会に属さない事項

課題は？

人口の増えるまちづくり
～住み続けるまちを目指して

年間テーマ

大項目：人口の増えるまちづくり
大前提 ⇒ 安全・安心のまちづくり(防災力の充実)
魅力発信 ⇒ 自然環境豊かで福祉・介護に充実し
子育てしやすい(移住・定住)



地域防災力協力法（第2条）

「地域防災力」とは、住民一人ひとりが自ら行う防災活動たる「自助」、自主防災組織や消防団等による「共助」、国・地方自治体、その他の公共機関による「公助」を含めた総合的な地域の防災体制・能力



自助・共助・公助の総合的な地域防災力

レベル	国	【公助】	防災基本計画の見直し	火山噴火対策（協議会による検討）
		【公助】	地域防災計画の策定 防災対策・マニュアルの整備 防災無線設備の拡充	道路（迂回路）の整備・新設 道路・港湾・拡幅、整備等 防災倉庫・防災拠点の整備
	県	【公助】	避難所・救護所の開設・運営	災害ボランティア本部の開設
		【公助】	防災教育（出前講座）・防災訓練の徹底	地誌データの収集・整備
	市	【共助】	⑧ 地域の絆の強化	⑨ 自主防災会の強化（地域は皆で守る「共助」）
		【共助】	⑦ 防災（避難）訓練（避難場所、経路、避難方法）	
	地域	【共助】	⑥ 防災教育（ハザードマップ、地域防災計画）	
		【自助】	⑤ 家族防災会議：自らの命を守る	
	家庭	【自助】	② 耐震・耐火対策	④ 緊急食糧の確保
		【自助】	① 非常用持出品の準備	③ 安全の確保（家具の固定）
				時間

防災能力の向上が不可欠
しかしながら
各地区により意識と訓練練度に
差が生じている！

御殿場市の行政区域（1・6・59）



7

御殿場市における自主防災組織の現状

組織

59すべての区に自主防災組織は設置

現状

各地区により意識や訓練練度に差が生じている。

課題・問題点

1 練度の差

(1) 訓練実施の差(参画意識の差)

※一時避難所開設運営訓練実施区

R3: 17区(開所: 2区)、R4: 14区(開所: 3区)

(2) 組織図・規約等、各種計画の未整備

2 自主防災会における防災リーダーの育成

(各組1名以上が理想 ⇒ 現状: 392名/724名)



日時	令和4年7月19日 13:30 ~ 15:00	視察先	石川県 小松市役所
視察項目	「自主防災組織のランクアップ取り組みについて」	目的	安全・安心の街を目指す為、小松市における自主防災組織の現状・取り組み及び今後の方向性を確認し、当市の自主防災組織の充実に資する。 特に組織のランクアップ取り組みについて良好な点及び改善を要する点を把握し、危機管理の充実を図る。
内容	<p>自主防災組織の発足</p> <p>阪神淡路大震災を契機に平成22年12月に設立（市内245町内100%に設置）</p> <p>ランクアップ導入の背景</p> <p>防災訓練ステップアップマニュアルを作成 訓練計画における準備・企画（Plan）、実施（Do）、点検評価（Check）、改善Action） PDCAサイクルにより、防災力の向上を図る。</p> <p>また、マンネリ化を防止することを目的に人材育成、組織の充実度、防災取組み、訓練関係を主とした35項目について1年間を評価し、取得点数により5段階にて評価</p> <p>その他</p> <p>地域防災リーダーの育成（女性の比率3割）、 しみん救護員の養成（女性325名）、災害時 要援護者マップの作成、宿泊費補助等</p>	考察	<p>自主防災会の現状</p> <p>発足の経緯はそれぞれあるが、約3年で100%（245町内設置）の達成は、市民の意識の高さはもちろん、当局の強い意志及び実行力が確認できた。</p> <p>自主防災組織のランクアップ</p> <p>各地区の意識及びスキルの差を無くすべく、防災訓練ステップアップマニュアルを作成するとともに評価制度を採り入れ、マンネリ化を防ぎ防災力の均一化が図れていることを確認した。評価制度の受け入れに 関しては、やや抵抗もあった と伺うも、 相対評価ではなく 各項目の到達度を評価する 絶対評価とし、「地域防災力の向上」を目的として保有能力向上に努めていた。</p>



自主防災組織 評価制度について

参

- 【評価期間】** 当該年10月1日～翌年9月30日
- 【評価の概要】**
- ・人材育成（防災士、しみん救護員、消防団員等）
 - ・組織の充実度（規約の見直し、自衛消防隊等、女性の参画等）
 - ・防災取組み（街頭消火器の設置、要配慮者の個別避難計画の作成等）
 - ・訓練関係（避難訓練、図上訓練、継続度、参加率）
- 35項目を評価**
- 【評価ランク】** D → C → B → A → **Sランク**（5段階評価）
- 【ランクの状況】**
- ・Sランク 1 町内(3) 120点以上(195点満点)
 - ・Aランク 12町内(75) 85点以上～120点未満
 - ・Bランク 27町内(112) 60点以上～85点未満
 - ・Cランク 16町内(50) 35点以上～60点未満
 - ・Dランク 189町内(6) 35点未満
- ※()内は平成30年度実績結果(全245町内)



種別	小計	評点	評価項目	特記事項		
基礎 評価 点	人材育成	7	防災士	1名以上		
		2	指導防災士(仮称)	〃		
		7	女性防災士	〃		
		2	外国人または学生防災士	〃		
		7	しみん救護員	〃		
		2	女性しみん救護員	〃		
		2	外国人または学生しみん救護員	〃		
		5	消防団員	〃		
		1	女性消防団員	〃		
		3	自主防災組織規約の見直し	必要に応じて、見直しが行われているか		
	2	地域自衛消防隊の設置	設置の有無			
	組織の充実	15	2	自衛消防隊訓練の実施	合同訓練大会への出場等	
			3	女性の防災活動への参加	女性防火クラブ、女性会等の参加	
			5	避難所運営協議会・委員会の設立	〃	
			5	町内用消火用具等の設置	動力ポンプ、街頭消火器等	
5			応急手当物品の保有	AED、応急手当物品等		
防災 取り組み	35	5	その他防災物品の保有	備蓄品、救助資機材等		
		3	運動型住宅用火災警報器	町内での共同購入等		
		3	感震ブレイカー	町内での共同購入等		
		2	地区防災計画等の作成	マップ形式も可		
		7	要配慮者個別計画の作成	マップ形式も可		
		5	その他の防災活動の取り組み	夜回り、看板設置、その他防災啓発		
		10	周辺地域、関係機関の協力体制	近隣町会、校下単位の実施、関係機関の参		
		5	避難訓練	地震、津波、洪水、煙中等		
		5	応急手当訓練	講習会形式の訓練含む		
		5	救出訓練	ガレキ救出、傷病者搬送訓練等		
訓練 評価 点	50	10	要配慮者の避難支援訓練	要配慮者が参加、要配慮者を想定した訓練		
		3	同上訓練	DIG、シミュレーション訓練等		
		7	避難所運営訓練	実働訓練、HUG訓練等		
		5	その他防災に関する訓練、講習会等	啓発教材の視聴も含む(ビデオ、DVD等)		
		15	継続度(優)	10年間で7回以上		
		10	継続度(良)	10年間で5回以上		
		5	継続度(可)	10年間で3回以上		
		訓練 参加者数	30	15	参加者数(優)	世帯数の30%以上または、200人以上
				10	参加者数(良)	世帯数の25%以上または、100人以上
				5	参加者数(可)	世帯数の20%以上または、50人以上
5	参加者数(可)			世帯数の20%以上または、50人以上		
合計	195	195				

＜ 評価ランク ＞

Sランク = 120点以上
 Aランク = 85点以上 ~ 120点未満 Cランク = 35点以上 ~ 60点未満
 Bランク = 60点以上 ~ 85点未満 Dランク = 35点未満

点数	ランク
195	S

小松市自主防災大会の開催



【趣 旨】

市民が安全に安心して生活できる地域づくりを目指すため自主防災大会を催し、組織間の交流を図るとともに広く市民に安全社会の実現と防災意識の向上、災害予防の啓発を行う。

【表 彰】 優秀な組織は毎年自主防災大会で表彰

※団体(SランクほかAランクの上位)
個人表彰

【ランクアップへの取組】

- 防災士・しみん救護員
の養成(特に女性)
- 自主防災訓練の実施(100%)
- 避難所運営協議会の発足と
開設訓練
- 運動型住警報器の設置など



御殿場市における自主防災組織のレベルアップを図るためには？

協議GP 場所担任

地 区	意見交換会会議室	担 当 委 員	
御殿場地区（15区）	第1委員会室	高木委員	全般 中島委員長
富士岡地区（15区）	第2委員会室	勝間田副委員長	
原里地区（10区）	301～303号会議室	高橋委員	
玉穂・印野地区（7+3区）	304～306号会議室	芹沢委員	
高根地区（9区）	201号会議室	菅沼委員	

協議要領



【 トランプ方式により実施 】

- 1 各人付箋紙へ手段・方法・取り組みを記入(10分)
- 2 グループ分け(同一の趣旨・手段を同じGPとしてまとめる)(5分)
- 3 優先順位の選定(15分)
各GPに分けられた施策の背景、実行の可能性等を考慮する。
- 4 各協議Gp毎発表(3分×5=15分)

居安思危

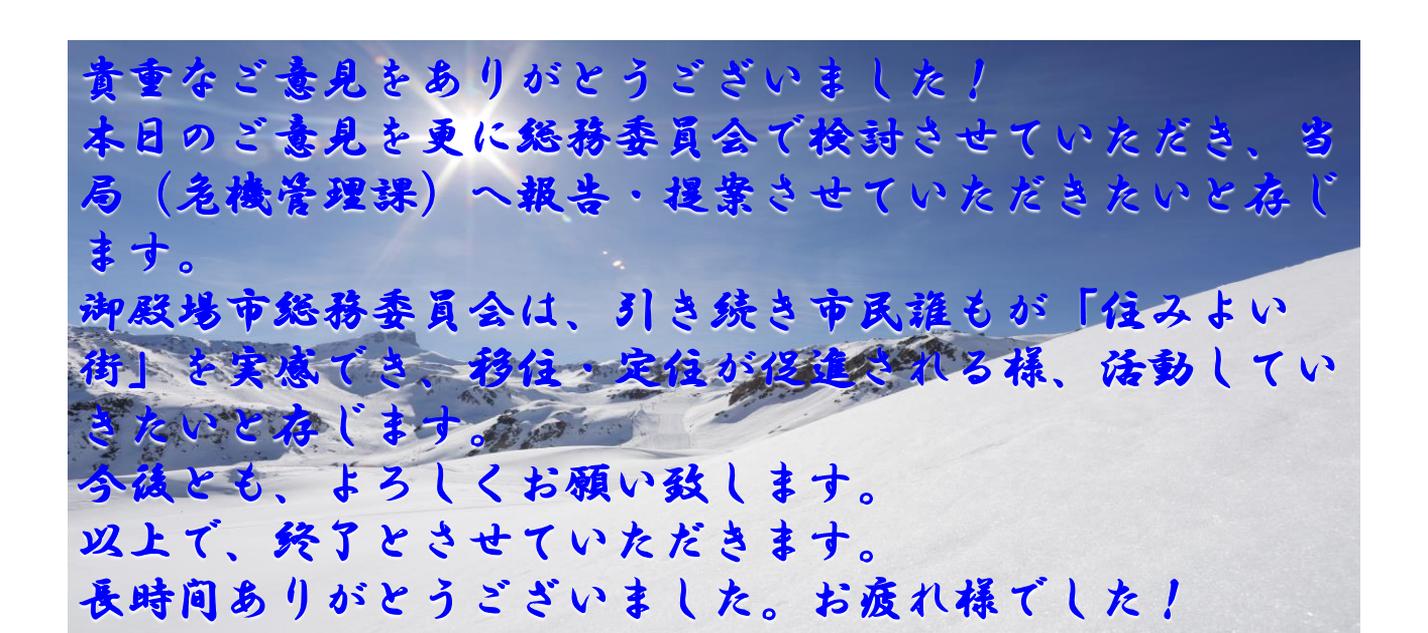
安きに居りて危うきを思う

思則有備

思えばすなわち備えあり

有備無患

備えあれば憂いなし



貴重なお意見をありがとうございました！
本日のご意見を更に総務委員会で検討させていただき、当局（危機管理課）へ報告・提案させていただきたいと存じます。

御殿場市総務委員会は、引き続き市民誰もが「住みよい街」を実感でき、移住・定住が促進される様、活動していきたいと存じます。

今後とも、よろしくお願い致します。

以上で、終了とさせていただきます。

長時間ありがとうございました。お疲れ様でした！